### 再評価結果(平成29年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道·防災課 担当課長名:川崎 茂信

事業名	一般国道20号 下諏訪岡谷バイパス	事業 一般国道区分	事業 主体	国 土 交 通 省 関東地方整備局
起終点	ながのけんすわぐんしもすわまちひがしまち 自:長野県諏訪郡下諏訪町東町 ながのけんおかやしいまい 至:長野県岡谷市今井		延長	5. 4km

#### 事業概要

一般国道20号は、東京都中央区から山梨県甲府市等を通過し、長野県塩尻市に至る延長約225kmの幹線 道路である。一般国道20号下諏訪岡谷バイパスは、現道である国道20号の交通混雑の緩和と交通安全の確 保を目的として計画された事業である。

H4年度事業化			H2年度都市計画決定			H6年度	H6年度用地着手			H10年度工事着手			
全体事業費	 		約46	4億円	事業:	進捗率	1		65%	供用済	延長	 	2. 9km (暫定)
計画交通量		6, 3	00~18	, 900台	L ì/日		<u>i</u>					<u>         i                           </u>	(首化)
費用対効果 分析結果	B/(	C 業全体)	1.3	総費	用 ;	(残事業)/(	(事業全体) (512 <b>億円</b>	í	総便益	(残事業)/(事 421/6	課全(4) 367億円	基準年 平成	_ ; 25年
	(残:	事業)	2. 8	1 1 -			38/498億円 1/ 14億円		全行時間短縮 走行費用減少 交通事故減少	<b>沙</b> 便益:72	/130億円		

感度分析の結果 事業全体・残事業について感度分析を実施

【事業全体】交通量 : B/C=1.2~1.4 (交通量 ±10%)【残事業】交通量 : B/C= 2.7~ 2.9 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.2~1.4 (事業費 ±10%) 事業期間: B/C=1.1~1.5 (事業期間±20%) 事業期間: B/C= 2.5~ 3.2 (事業期間±20%)

事業の効果等

#### ①交通混雑の緩和

- ・国道20号(現道)の損失時間は、約105.5千人時間/年・kmから約93.3千人時間/年・kmと前回再評価時から横ばい。
- ・平成16年3月の暫定2車線開通後に所要時間は短縮したものの、長地交差点(暫定2車線開通区間への接続)や大社通り交差点(国道142号と接続)などでは渋滞が残存。
- ・下諏訪・岡谷バイパスの整備により、バイパスへの交通転換に伴う国道20号(現道)の渋滞緩和が見込まれる。

#### ②交通安全の確保

- ・国道20号(現道)の死傷事故率は、約76.5件/億台・kmから約76.9件/億台・kmと前回再評価時から横ばい。
- ・大社通り交差点、長地交差点では死傷事故率が200件/億台・kmを超える交差点が存在しており、追突や 出合頭事故といった渋滞や沿道出入りに起因する事故が多発。
- ・下諏訪・岡谷バイパスの整備により、バイパスへの交通転換に伴う国道20号(現道)の事故削減が見込まれる。

# 関係する地方公共団体等の意見

長野県知事の意見:

一般国道20号「下諏訪岡谷バイパス」は、交通混雑の緩和や交通事故の減少等に寄与する必要不可欠な事業です。

ついては、事業を継続し、積極的な予算確保により、早期開通を図るよう強く要望します。

また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いします。

# 事業評価監視委員会の意見

事業の継続を承認する。

#### 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

下諏訪岡谷バイパス暫定2車線 (2.9km)、国道142号バイパス及び県道下諏訪辰野線の3路線を同時に平成16年3月27日に供用。長地山の手土地区画整理事業が平成14年度事業完了。

#### 事業の進捗状況、残事業の内容等

平成16年3月に暫定2車線(2.9km)が開通済み。国道142号から国道142号バイパス間(1.7km)の道路設計を行うとともに、今井地区で改良工事及び橋梁工事を実施。平成29年度に、岡谷市今井〜岡谷インター西区間L=0.8kmを完成2車線で開通予定。

#### 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

用地取得は約85%完了。引き続き、用地の取得、工事の促進を図り、早期の供用を目指す。

#### 施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に取り組む。

#### 対応方針

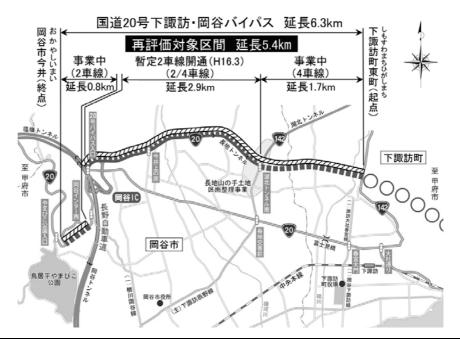
事業継続

#### 対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

## 事業概要図





- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。